

- 1 派遣期日 平成28年9月24日（土）
- 2 研修先 学校名（会場名） 長野県木島平村立木島平中学校
所在地 〒389-2302 長野県下高井郡木島平村往郷839番地
<http://kijimadairajh.nakano-shimotakai-kyoikukai.jp/>

3 研修内容

(1) 視察校における研究への取り組み

研究テーマ：「教科の本質に浸って学び続ける生徒」～平等と質の向上をめざして～

① 協同する学び

木島平中学校では「協同する学び」の研究に取り組んでいる。4人以下のグループによる学び合いは、一人一人の生徒に強制的に学びを促す機能があり、「わからなさ」に丁寧寄り添うことにより子どもは一人で学ぶことの限界を超えることができる、という考えに基づき、少人数で互恵的に学ぶ授業スタイルをとっている。

② 2つの課題による授業構成

一時間の授業は、主に「共有の課題」と「探究の課題」の2つの課題で構成されている。「共有の課題」は全ての子どもが解決すべき基礎的・基本的な課題であり、「探究の課題」は、解決に思考力、表現力が必要とされ、生徒の探究心を揺さぶるような課題である。

③ 授業デザイン

授業の構想を記述したものを、「授業デザイン」と呼ぶ。いわゆる「指導案」にあたるものであるが、そこには授業にかける教師の思いや、生徒への願いが多くスペースを割いて記述されている。展開について詳細な記述がないのは、生徒の反応に応じて生徒と授業者で授業を創っていくという考えに基づいている。

英語科 授業デザイン	
1. 授業年級	2年1組 男子13名 女子13名 計26名
2. 単元名	「LESSON 5 My Dream」
3. 単元の核心	「want to を使って自分の夢についてスピーチする」
4. わらい	外国の子どもの夢についての英文を聞き、内容を理解した生徒たちが、聞き取った英文の内容や教科書の内容、今まで学習した英文プリントを見返したり、辞書を使って単語を調べたりすることを通して、外国の子供たちの夢についての英語を理解し、グループの仲間にもその内容を英語で伝えることができる。
5. 授業構想	(1) ある外国の子供の夢についての文を聞き、ワークシートに穴埋めをする。 (2) 英文の内容を確認する。
共有の課題	want to など不定詞の用法を使った英文聞き取り、その内容を理解する。
	(3) 活動のやり方を知る。 (4) 同じスピーチの担当ごとに集まって英文を訳読し、紹介文を書く。 (5) それぞれのグループに備えて、グループの仲間に英文の内容を英語で伝える。
探究の課題	外国の子供の夢についての英文を訳読し、その内容を仲間にも伝える。
	(6) 本時の振り返りをする。5人の夢を聞いてどう思ったかを記入する。
6. 教材の価値と本時に寄せる教師の願い	本単元では、自分の夢についてのスピーチをするという Goal を目指して不定詞の用法を理解し、比較的長いスピーチ原稿を読み込んできた。前時にはスピーチ「私の夢」の例文を読み、スピーチの構成、内容を理解した。生徒たちは自分の夢についての原稿作成・スピーチ発表に向けて気持ちが高まっている。 「私の夢」というと将来の職業をイメージする生徒が多い。先週職場体験を行ったばかりの生徒たちはきっと将来の職業への関心を高め、「こんな職種の仕事してみたい」などの願いを強くしている生徒もいるだろう。ただ将来の職業を決めかねている生徒には、夢＝職業ではなく「自分は将来こんなことをしてみたい」「こんな場所に行ってみよう」「将来こういう生活がしたい」「将来こんな人になりたい」などといった願いをスピーチにしてほしいと願っている。 本時は、外国の子どもの夢についての英文を訳読して、仲間を紹介する。各国の同じ年代の子どもがどんな夢を持っているのか興味を持って読み、不定詞用法に着目しながら訳読し、紹介してはいい。振り返りの感想では、外国の子どもたちの夢と今、自分が描いている夢を比較して考える。または外国の子どもたちの自国への思いなどを感じ取り、その子やその子の国に思いをはせるといった内容も期待したい。次時のスピーチ原稿作成では、本時読んだ英文の内容や表現を参考に自分の夢の原稿を作成し、スピーチ発表につなげてほしい。

(2) 視察校における授業の実際

授業デザインの例

① 3年 英語 「The story of Sadako」

「共有の課題」では、4つのパートに分かれている本文について、4人グループのメンバーが一人1パートずつを担当し、和訳に取り組んだ。その際に同じパートを選んだ生徒同士で新たに小グループをつくり、筆者がその文に込めた思いについて意見を交わしながら、文意が表れるような言葉を選び、日本語に表現していった。「探究の課題」では、最初のグループに戻り、それぞれのパートで解釈したことをグループのメンバーに伝達、共有し、さらに考えを深めていった。

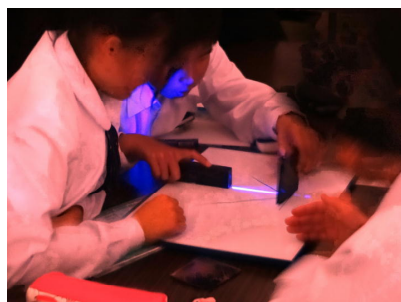


文意に合う言葉を辞書で探す生徒

② 1年 理科 「光の世界 ～光の反射～」

「共有の課題」では、グループごとに実験を行い、光の反射の法則を見いだした。各グループにレーザーポインターと鏡、光の道筋を写したり発表したりするためのホワイトボードが用意され、生徒は実験の方法をグループで相談しながら自由に実験を行った。

「探究の課題」では、反射板に光を当てて、入射した方向に光がはね返る現象を提示し、どうやったら入射した方向に光をはね返すことができるのかを究明した。生徒は複数の鏡や顕微鏡など、理科室にある道具を駆使し、解決に向けてグループで思考を深めた。



光の反射の法則を調べる



反射板の構造を顕微鏡で観察



鏡を3枚組み合わせてみたら…

(3) 佐藤学氏による講演会

視察先に木島平中学校を選んだ動機のひとつに、指導者として東京大学名誉教授佐藤学先生を招いていたことがある。「学びの共同体」で全国を席卷した同氏に指導を仰ぎ、講演を聴くことができたことは大変有意義だった。「協同的な（質の高い）学び」を創る意義や必要性について幅広い見地からのお話を伺うことができた。「わかったことを交流しなくていい」、「学びはわからないことを探究すること」、「人との対話の経験が自己内対話を生む」、「思考・探究は自己内対話の中でしかできない」などの言葉は、私の授業改善に大きな示唆を与えてくれた。

協同的な(質の高い)学びの条件	
話し合い	→ 聴き合い
教え合い	→ 学び合い
意見の交流→協同による探究	

4 感想

- 教師が多くを語らず、生徒同士で学び合い、高め合う授業を目の当たりにすることができたことは、一斉指導からの脱却に悩んでいた自分にとって大きな収穫であった。今回の研修で、授業改善への道筋を見いだすことができ、有意義な研修となった。
 - 「共有の課題」と「探究の課題」の2つの課題による授業構成は、「協同する学び」を実現させる授業スタイルとして、自分の授業改善に向けての大きな一歩となった。一方で、授業の成否は課題に大きく左右されるので、課題を吟味することの大切さも確認できた。
 - 「協同する学び」を実現させるためには、授業を生徒に預ける勇気が教師に必要とされることを感じた。そのためには、それを支える学級集団をつくっておくことや、ひとりひとりの学びを教師がしっかり見取る技術も、教師の意識改革と共に重要になる。
 - 公開授業を参観している先生方が、生徒の間にどんどん入って行き、生徒の活動の様子を熱心に観察していた。生徒はそれに慣れていているという。長野の先生方の熱意を感じた。
 - 学び合いに参加しなかったり、学習に興味を示さなかったりする生徒が一人もいなかった。小学校第1学年におけるペア学習をはじめとして、段階を踏んだ指導を積み重ね、学び合う態度が身に付いている。小中連携した9年間の指導が大きく実っている。
- 生徒同士で学びの質を高められるような授業をめざして、今後も研鑽を積んでいきたい。